

中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	目標値	検証方法(アンケート等)			学校評価の結果・評価・課題・改善案						
						アンケート			結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案	
						教職員	生徒	保護者							
学校の魅力化	総合学科高校としての魅力化支援	総務	オープンスクールの充実を図る。特に2回目の募集にあたっては1回目のダイジェスト版を中学校に配布することで参加意欲を高めさせる。	2回のオープンスクールの延べ参加人数130人以上	100%				第1回 164 第2回 45 合計 209	第1回 119 第2回 87 合計 206 到達率 89.8%	A	・1回目に164名が参加したが、予想通り2回目は45名と少なかった。1回目が例年以上に多かったため講座によっては収容人数オーバーとなり、結果的に強制的に第2希望へ変更せざるを得なかった。	A	・第1希望講座へ納めるための展開方法を検討する。	
	高校魅力化コンソーシアムの構築	総務	道の駅「ごいせ仁摩」との共同活動に着手し、定例職員会議後には状況を報告したり共通理解を図るための校内研修会を行い、コンソーシアムの土台を作る。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。	80%	○			70.6%		B	・職員会議や校内研修会でイメージづくりを行ったが、実施回数や延べ取組時間が不十分だったと思う。結果として約30%の方から土台づくりとなっていないと指摘された。	B	・令和3年4月に漣高校コンソーシアムはスタートする。単年度で行うことは明確にしているため、教職員で協力してコンソーシアムを運営したい。	
	PTA活動の充実	総務	文化祭でPTA事業を実施することで、生徒・教職員・保護者の学校満足度を上げる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			—	100.0%	—	A	・新型コロナウイルス感染症対策として、文化祭自体の開催スタイルが変更となった。PTA事業の開催が中止となり残念だった。	A	・一昨年のように生徒も保護者も楽しめる企画を検討する。
	総合学科実践の精査と改善を図りながらの総合学科魅力化推進	総合学科研究	総合学科実践を3年間のつながりのもとで改善し、総合学科教育の魅力化を推進する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			87.5%		A	・今年度より各実践を1つの分掌で一括して扱う新体制になったが、今年は直前まで計画が定まらず、事前に共通理解を図る機会を十分に持てなかった。 ・1年生「産業社会と人間」は通年履修になり、計画の変更を繰り返しながらも生徒の成長に合わせた取り組みができた。2年生は昨年度の「産社」からのつながりが一旦途切れていることも影響していると考えられ、引き続き3年次の指導で補う必要がある。	A	・創設2年目の分掌内業務や校内分担任見直し、学年会や系列主任会での共通理解の機会を増やす。計画的にその場を確保できるよう学年主任との連携を強化する。 ・各学年の実践を、前後の学年とのつながりを検証しながら見直す。 ・新たに「石見銀山保全活動プロジェクト」を3年間をつなげる実践活動に加える。	
	島根県ならびに本校の総合学科教育の研究と実践	総合学科研究	社会の変化やニーズに対応した内容を検討し、将来的な科目群や系列編成を検討する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			93.9%		A	・総合学科教育に係る会議・研究会等の中止が相次ぎ、県内外の最新情報を例年のように得ることはできなかったが、先生方に総合学科教員としての自覚を高めながら各実践に協力的に取り組んでいただくと認識している。 ・引き続き本校の総合学科教育を県内・全国の視点で検証し、高める必要がある。	A	・教職員向け総合学科研修の継続と充実を図る。 ・他校・他県の情報や、研究会に参加した場合はその報告を校内で共有し、本校の総合学科教育の質の向上を図る。	
	学校関係者、中学生、地域に対する効果的な情報発信	図書情報研修	・分掌・学年会・系列などから情報を収集しHPに掲載して、効果的な情報発信に努める。 ・学校の魅力をHPを通じて発信し、学校のPRに努める。	HPアクセス解析によるアクセス数情報掲載数：月平均15回以上 アクセス数：月平均3,000回以上	100%				掲載数 154回 アクセス数 3441回	掲載数 15回 アクセス数 2752回	A	・今年度はコロナ禍の影響の中、HP等で学校や部活動などの情報を提供したため、多くの方にアクセスしていただいた。また、学校の案内などを最新の内容にすることでアクセス数が増加したと考えられる。多くの先生方に掲載データの提供をもらったのが要因である。次年度も継続して、学校の魅力発信にHPを活用していきたい。	A	・今後も学校行事・分掌・系列・部活動などの活動成果をHPに掲載していただけるよう呼びかけを行いたい。	
	学校行事への参画、教員との連携の強化	事務	来客や電話への丁寧な対応、予算の効率的な執行に努める。	教職員・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			93.8%	94.1%	A	・来客や電話対応では、トラブルもなく概ね丁寧な対応ができたと考えている。 ・校内予算の配分、修繕予算等の執行では、教員と連携しながら効率的な執行に努めたが、修繕方法の検討により対応が遅れることもあった。	A	・昨年10月に始まった施設管理の一元化制度を有効に活用しながら、素早い修繕対応を図っていく。	
生徒の魅力化	総合学科教育推進の柱となる体制作りと、各部署と連携した系統的な教育体制作り	総合学科研究	生徒主体の「ファイブスターカンパニー」を育成し、学習成果と地域とを繋ぐ「漣高フェア」の企画・運営を全学年・全教職員でおこなう。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		97.1%	91.2%	A	・全体運営・系列企画とも、生徒主体で運営できるまでの「育成段階」に、教員がどのように関わって探究学習の指導をするかが大切と考える。 ・今年から全学年が参加するフェアとしたが、1・2年生にどのような役割を任せるか、また次学年につなげるためにどのような指導をするかを検討し、改善する必要がある。	A	・系列主任会を計画的に開催し、各系列の指導内容の共有や協議、助言の機会を増やし、充実を図る。 ・感染症対策以外の1年生の配置を検討する。 ・分掌や校内での業務分担を検討する。		
	図書館活用の充実と読書活動の推進	図書情報研修	・教科指導や総合的な探究の学習の時間などに活用できる図書や環境整備に努める。 ・新聞学習・出前文庫・読書感想文などを通して活字に親しむ生徒を育成する。 ・新書・推薦図書等を紹介するとともに、有益な蔵書構成を保って、読書意欲を喚起する。 ・図書館を利用した各種活動を実施して、図書委員会の活動を充実させる。	図書館を活用した授業数が年間200時間以上(1月まで160時間以上) 平均貸出数年3冊以上の生徒の割合(1月まで2.4冊以上)	100%			116時間	179時間	C	・授業者のレポートによるところが大きく、年度によって増減が見られる。	B	・総合的な探究、課題研究、銀の哲学等でも図書館の積極的な利用を促す。 ・ICT利用環境も宣伝し、図書館の利用の低い教科にも、利用してもらえよう働きかける。		
	体験的な学習活動への積極的参加	生徒指導	・部活動の振興を図る。 ・生徒主体で達成感もてる体育祭・文化祭を創造する。 ・各委員会活動を生かして生徒が主体的に活躍できる機会を増やす。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		97.1%	86.1%	83.3%	A	・今年度は新型コロナウイルスに振り回されながらも、いかにして生徒の活動の場を確保するか先生方が多方面で工夫していただいた結果が生徒・保護者の充実感、達成感につながったと思われる。(保護者のうち5.8%はわからないという回答であった。)	A	・工夫することで充実感や達成感を得られるという体験を生徒も積み重ねてきたので、次年度以降も既存の内容にこだわらずその時々に見合った活動を前先生方と協力して模索していきたい。	
	生徒の個性・資質を的確に把握し、進路意識の伸長と最適な進路実現をめざす指導の充実と推進	進路指導	・進路希望調査・生徒面談・各種検査を効果的に利用する。 ・社会人としての基本的なルールを身につけさせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		87.9%	87.0%	A	・目標値に達し、一定の成果は得られた。コロナの関係で対面が制限され、情報が入りにくい分、広報が不十分であったため、保護者の回答(81.2%)が生徒の回答(92.2%)まで至らなかった。	A	・コロナウイルス感染の収束が滞る中、進路意識の向上の仕掛けや情報提供の仕方など、工夫と配慮を凝らしながら、生徒や保護者の一層の信頼を得ていく。		
	進路情報の積極的な提供と発信	進路指導	進路デーや進路ガイダンス、「進路閲覧室」の利用促進、ホームページでの情報発信を通じて幅広い的確な情報提供を行う。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%		○	81.2%	80.9%	A		A			
	相談活動の充実と特別支援教育の推進	保健	特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会等の会議は定期的または必要に応じて実施できた。継続的な情報共有の会議の実施が十分ではなかった。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		91.2%	96.9%	A	・特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会等の会議は定期的または必要に応じて実施できた。継続的な情報共有の会議の実施が十分ではなかった。	A	・特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会等の会議の報告を職員会議、職員朝礼等で行う。 ・2回目、3回目の情報共有の会議を実施する。		
	生徒・職員の健康管理の推進、学習環境の美化と施設保全	保健	保健委員による感染症予防対策・学校環境美化(掲示物や放送等での呼びかけ、掃除用具の整理・補充)を実施する。	教職員・生徒のアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		91.2%	75.8%	A	・登校時の手洗い運動をはじめ、さまざまな活動を実施したが、感染症対策や環境美化に対する意識の向上には十分に繋がらない場面もあった。	A	・全校集会や学年集会等で感染症対策や環境美化について呼びかけを行う機会を増やす。		
	人権・同和教育の充実と多様性を認め合う心の教育の実践	人権・同和教育	・人権・同和教育に関するHR活動を企画・実施する。 ・各種アンケート調査を企画・実施する。 ・教職員研修の企画・実施、人権・同和教育だよりの発行を行う。	教職員・生徒・保護者のアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		100.0%	80.0%	A	・HR活動の企画や便りの発行を中心に、人権・同和教育について考える機会をさまざまなかたちで提供することができた。次年度も、生徒の実態に即した活動を企画するとともに、全教職員で人権・同和教育を推進していく体制をつくりたい。保護者に対してはホームページ等により引き続き情報発信を行っていく。	A	・生徒の実態把握のための意識調査を実施する(現在の「人権アンケート」を改編する) ・人権・同和教育に関するHRが学年会主導で実施できるよう、体制づくりをおこなう ・教職員研修を計画的に実施する・		
						80%		○	75.1%	67.6%					

中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	目標値	検証方法(アンケート等)			結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案
						教職員	生徒	保護者						
学習指導の充実	総合学科教育推進の柱となる体制作りと、各部署と連携した系統的な教育体制作り	総合学科研究	ガイダンスや体験授業を通して主体的な系列・科目選択への指導体制を充実させる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			97.1%		A	・生徒は主体的な選択ができてと回答しており、系列や科目での指導にもその主体性を尊重した一層の興味・関心・意欲を引き出す工夫が求められると感じる。 ・担任だけでなく系列や進路指導部とも連携し、一人一人の進路目標に応じた適切な選択への指導や相談体制の整備が必要である。 ・高校卒業後に、適切な選択であったかを検証する必要がある。	A	・教員が適切な指導をしていくために、進路先での必要な科目や学力について最新情報が共有できるよう、進路先で選択科目が活かされたのか、または不足していたのかも含めて、卒業生の追跡調査を進路指導部・教務部と連携して整備する。
					80%		○		98.1%					
					80%			○	90.5%					
	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	互見授業、公開授業、授業評価を実施し授業改善を促進する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。	80%	○			61.8%	67.6%	C	・互見授業期間の公開授業日が教員全体に周知できていなかった。 ・系列を超えた授業参観ができるようにし、生徒理解や授業改善の気付きにつなげたい。	B	・教員の授業改善の意識が高まるように、学期毎に実施する「生徒による授業評価」を継続する。 ・他系列の授業参観を可能にする方法を検討する。
	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	効果的なUD環境の定着を推進する。	教職員・生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。	80%	○			87.9%	90.9%	A	・UD環境はかなり定着したと言える。 ・授業における目標、流れ、まとめの時間の確保などの徹底については、課題がある。 ・教室の環境整備の必要がある。	A	・「生徒による授業評価」の質問項目を検討する。 ・教室の環境整備をする。
80%		○		94.3%	91.5%									
情報機器を中心とした授業実践の環境を整備	図書情報研修	PC教室やICT機器を管理するとともに、授業を初めとする活用を支援する。	教職員のアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			80.0%		A	・今年度は、コロナ禍の影響でオンライン授業等の対応をすることがあり、多くの先生がICT機器に対する研修・案内等を行い、ICT機器を活用していただくことができた。次年度はさらに、オンライン授業等への対応が必要となるので、研修の案内や機器の有効活用を案内し生徒先生方が有効に活用できるようにしていきたい。	A	・研修等を活用し、ICT機器の使用法・生徒に対する指導を充実できるよう、機器の管理をしていきたい。 ・PC教室の活用を充実させるよう定期的な機器のメンテナンスなどを実践していきたい。	
生徒指導の充実	自他の生命・人権を尊重する態度の育成	生徒指導	・「いじめをしない、させない、許さない」の指導のためアンケートを実施し、その結果を受け、面談を行う。 ・集会などを通して注意喚起と啓発をする。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。 生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。	80%	○			85.7%		A	・安心して学校生活を送れたかという問いであったが、生徒・保護者からは教員の取り組み、姿勢に対して一定の評価を得た。教員側には、そのための連携がとれていたかという問いであり、コロナに振り回され時間の確保が難しかったと思われる。	A	・会議日の設定がされているので、その日に効率的に会議を行い、意思の疎通が図れるようにする。
							○		97.2%					
								○	95.9%					
	社会生活に必要な規範意識の向上	生徒指導	・場にふさわしい振舞・言葉遣いとコミュニケーション能力を高める。 ・挨拶の励行と身なり指導の徹底を図る。 ・交通安全および公共交通機関の利用マナーの指導を強化する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。 生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。	80%	○			94.3%		A	・ルール、マナー決まりを守るという問いかけであった。先生方には場面場面で生徒に対して適切にあたっていただけたのではないかと。生徒保護者は否定的な回答が生徒より保護者が多く、生徒自身の評価と保護者の評価に差が見られた。	A	・生徒会、遼摩高校を考える会などを通じて生徒自身が決まりを守る意識を持った学校生活を送ることができるように働きかけたい。 ・ルール、決まりなどは教員間で統一した指導ができて、生徒にとっても分かりやすいように職員会議や学年集会用を活用していきたい。
					80%		○		97.6%	95.8%				
					80%			○	90.6%	60.3%				
	寮の学習時間の有効活用	舎務	学習時間の有効活用(特に定期試験中)に努める。	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%		○		100.0%		A	・学習は指定時間に食堂で男女別に行い、互いに勉強を教えるなど良い雰囲気である。 ・課題としては自室で学習する際の環境づくりがあげられる。	A	・自室への机や新たな照明器具の設置
	学年会による指導の充実	1年	面談などを通して、生徒一人ひとりの関心や適性を把握し、個に応じた指導を行う。進路にかかわる意識をもたせ、適切な系列選択ができるよう支援する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			89.7%	70.4%	A	・結果は目標値と昨年度を超え、一昨年度(96.4%、95.1%、91.5%)の結果に近いものであった。個々に問題を抱える生徒に対しては、保護者や関係機関と連絡を密に取りながら対応してきた。場面ごとにクラスの色合いの違いが見られたが、集会時の集合や話を聞く態度は概ね良好であった。系列選択については「産業社会と人間」が通年実施され、前期だけで決定していた昨年より余裕をもって選択が可能であった。学年会を臨時に召集するのではなく、定期的に開催できると良かった。	A	
							○		95.6%	92.2%				
								○	88.2%	82.2%				
2年		生徒一人ひとりの理解を深め、個に応じた指導を行う。進路指導の醸成を図り、将来的なビジョンに基づいた学校生活を送らせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			95.7%	91.7%	A	・担任の先生を中心に、生徒との面談を定期的実施し、生徒の実態把握に努め、個別に具体的な支援をすることができた。 ・学年会を実施することが少なく、学年間で情報の共有はもう一つだった。次年度の課題である。 ・保護者に対しての情報発信にはまだまだ改善の余地がある。学校での生徒の様子が伝わるよう、定期的な学年便りやクラス便りの発行に加えて、Facebook等HPの活用が必要であると考え。	A	
							○		95.8%	89.0%				
								○	84.1%	81.1%				
3年		学年集会などを通し、進路実現に向けた全体指導を充実させる。生徒一人ひとりの状況に即した個別面談などの指導や支援を充実させる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○			100.0%	96.6%	A	・目標を大きく上回る結果となった。学年会全体での全体指導と担任を中心とした個別指導がうまく機能し、希望する生徒の全員が進路を決定することができたことも大きな要因であると考え。担任の先生には生徒との面談を定期的実施し、また保護者との連携も密に行っていた。保護者同伴説明会にもほぼ全員の参加があり、協力を得ることができた。	A	
							○		96.9%	87.8%				
								○	95.4%	81.3%				
遼摩高校満足度の向上		教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%		○		82.8% (内は上から1年(79.5%) (88.2%) (83.1%))	77.6% (内は上から1年(80.3%) (72.3%) (79.3%))	A	・コロナ禍で、制限のある学校生活を送っている中で、2・3年生は昨年より満足度が大きく向上している。 ・1年が低くなったのは、休業等のため、スムーズに高校生活がスタートできず、2学期に悩みを抱える生徒が増えた事が原因ではないかと思われる。	A	・安心、安全な学校生活を送ることが必要である。いじめやSNSなどの生徒間トラブルや、不登校傾向にならないようにするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、個々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。 ・一方で生徒の主体性・自主性を強化するために、生徒主体の会である「遼摩高校を考える会」の充実を図り、生徒の意見を反映した魅力化に取り組んで行くと共に、一層地域連携を進め、魅力化の推進及び発信を行う。 ・また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、夢の実現に向けて、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。	